

## II 松原市これからの地域医療のあり方検討委員会 開催内容

### 開催内容一覧

### 開催内容一覧

開催日	内 容
第1回 平成21年11月2日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆市長あいさつ、委員長と副委員長選出</li> <li>◆南河内および松原市の保健・医療の課題について議論</li> <li>◆市民アンケート実施の提案</li> </ul>
市民アンケートを実施 平成21年11月30日 ～ 平成21年12月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆「松原市地域医療の充実・向上」に向けた市民アンケートを実施</li> <li>・20歳以上500人を対象</li> <li>・回答205人（回答率 41%）</li> </ul>
第2回 平成22年2月8日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆アンケート結果について議論</li> <li>・がん検診の受診率について</li> <li>・病診連携について</li> <li>・前立腺がん検診の導入の検討について</li> </ul>
第3回 平成22年5月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆これまでの経過をふまえ、保健・医療の課題について議論</li> <li>・市役所1階で健康相談の実施について</li> <li>・市役所ロビーや市内スーパーでの保健事業の実施について</li> <li>・市立松原病院閉院に伴う看護師の活用について</li> </ul>
第4回 平成22年8月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆予防接種について議論</li> <li>・子宮頸がん予防ワクチン、ヒブワクチン等任意接種のワクチンへの取り組みについて</li> <li>◆病診連携について議論</li> </ul>
第5回 平成22年11月22日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆相談事業、予防事業の今後の方策について議論</li> <li>・PTAなどとの連携による、健康相談や教室の地域での実施について</li> </ul>
第6回 平成23年4月11日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆かかりつけ医どうしの地域連携について議論</li> <li>◆「東日本大震災」での取り組みについて報告</li> </ul>
第7回 平成23年10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆がん検診及びワクチン接種について議論</li> <li>◆メンタルヘルスの取り組みについて議論</li> </ul>
第8回 平成25年3月28日	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆委員会で提案され施策として実施してきた主な事業や地域医療の取り組みについて</li> </ul>

開催日	内容
第9回 平成25年8月5日	◆委員会の報告書について議論
第10回 平成25年9月3日	◆委員会の報告書を提出（市長へ報告）

## 「第1回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成21年11月 2日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

山田晃久（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（大阪大学教授）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

澤井市長

川西副市長

（事務局）高井保健福祉部長、長谷川保健福祉部理事、  
山下保健福祉部次長、岡田地域保健課長、浦野参事

### ○澤井市長あいさつ

市立松原病院を廃院せざるを得なくなったが、これからのまちづくりを考えている。病床100床の移管を含む病院機能移管も進み、大きく変化した。また看護師・保健師・栄養士の資格を持っている職員が庁内に健康相談窓口をつくり、市民の健康不安を速やかに解消する方法を考えている。

医療水準を上げる方策として、まずは検診事業に力を入れたい。この委員会を市長直轄として、委員の貴重な意見をいただき、スピードを持ってあらゆる問題に取り組み、まちづくりや施策に反映したいと思っている。

### ○委員長・副委員長選出

委員の互選により委員長に 山田晃久（松原市医師会 会長）

副委員長に 西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

### ○山田委員長あいさつ

### ○委員の自己紹介

## ○事務局より委員会の趣旨説明

市長のマニフェストに「市立松原病院の閉院に伴う地域医療の不安の解消を目指し、庁内にプロジェクトチームを設置するとともに、医師会等との連携を強化することで、小児医療をはじめ地域医療体制の一層の充実を図る」とあり、市内の医療水準の向上が今後の施策の不可欠な要素。

単に医療機関の充実を目指すのではなく、健康づくりと医療環境について課題や問題の解決に向けて幅広い議論をお願いしたい。

## ○南河内及び松原市の保健・医療の課題をテーマとした議論について主な意見

- ・医師の数は限られている。医師の指導の下で動ける相談機関やスタッフの充実が大切。
- ・イギリスでは、病院システム（病院一開業医）が完成し、地域医療とどう繋ぐか、一般住民の医療ニーズをどうマッチさせるか、ソーシャルサービスとジョイントした仕組みをどう作るかというところきており、松原ではそれ以上の仕組みを。
- ・介護にしても医療にしても安心感がないのが問題。連携がうまくいっていないという問題もある。お金の問題もある。安易に医療機関を利用しすぎる問題もある。医療側も市民ももっと考えていかないと。
- ・国の在宅への方針は机上の論理。そんな簡単なものではない。介護疲れでの自殺もあり、本当に考えないと。
- ・市立松原病院閉院表明後の保健所管内の医療機関の入院状況をみてきたが、ほとんど変化がない。松原のような大阪市に隣接するところでの医療ニーズの捉え方が難しい。職員の資格を活かした健康相談窓口の設置は非常にいいアイデアだ。一番困っている市民の不安解消となる。
- ・専門の分野になると専門の医師やバックアップの病院が必要だ。歯科医師会としては、病院と連携して動けたらと考えている。
- ・日本の場合、一般の患者と医療機関を繋ぐあいだの交通整理をする仕組みがない。社会的弱者ほど情報がなく、評判や閉院で流れが変わり、患者も医師も負担になる。
- ・市立松原病院で経験を蓄積した専門職を医療システムの一つの仕組みとして活用できないか。
- ・介護保険や訪問看護などいろんな制度とバッティングする面はあるが、市の看護師や保健師を在宅の市民サービスを熱心にやられている医療者にくっつけるということにトライしてみても面白い。病院を退院して家に帰ってもこういうケアが受けられるとなれば、ベットの回転率も収益も上がる。

- ・イギリスでは、NHSダイレクトという需用に対応した仕組みがある。基本的には看護師が電話などで相談を受け、トリアージする。看護師をトレーニングして医療・福祉・介護の支援を行う。家で介護できなくても、どこに繋いだらいいかぐらいの役割でも地域の方は安心するのでは。
- ・日本の医療システムの中で、看護師がそういう機能をするだろうか。
- ・病院という機能本来の業務と収益性を確保しようとする、医者は本来診るべき患者に専念し、看護師や他の専門職が事務作業等の荷を分かちあうほうがコストの削減にもなる。
- ・市立松原病院が廃院になって、市民が今困っていること、不備なところから具体的に考えたらどうか。入院はあまり影響がないようだし、外来も増えてはいるが診れない状況でもない。問題は、産科と小児科。
- ・閉院の問題と今後の医療・保健・福祉の問題を分けて考えるほうがいいのでは。
- ・市立松原病院ができてきた経過とどういう使命を持ってきたのか教えていただきたい。病院閉院後の医療を考えると、市民病院の必要使命は何なのか吟味しなければならない。
- ・今の市民が求めている医療とは何なのかを考えて、いろいろと仕組みが作られたらいい。
- ・今、市民が何に困っているか、アンケートも必要だ。そこから始めてはどうか。
- ・市民が現実的に医療需用をどこで満たしているのか。本来、市内の医療機関でどう満たせるのか、そのあたりの調査も必要だ。

## 「第2回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成22年 2月 8日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

山田晃久（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（大阪大学教授）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

（事務局）高井保健福祉部長、長谷川保健福祉部理事、  
山下保健福祉部次長、岡田地域保健課長、浦野参事

### ○事務局より説明

#### ①保健師・助産師・看護師等の配置について

- ・平成21年4月1日現在、市立松原病院から市役所へ異動になった保健師・助産師・看護師は67名。うち医療職として配置されているのは、19名。残り48名は事務職へ職種替。

#### ②松原市地域医療の沿革

- ・市立松原病院の発足は、昭和22年5月松原町国民健康保険直営診療所として設立され、その後、昭和25年9月に当直営病院となった。昭和30年に松原市制がひかれて、松原市国民保健直営病院と改称。その後、昭和38年に市立松原病院と改称して、現在にいたっている。
- ・昭和50年くらいまでは、総合病院というのは市立松原病院しかないという状況であった。その後、市内に次々と病院が開設され、市立松原病院の役割が大きく変化してきたと考えられる。

#### ③「松原市地域医療の充実・向上」に向けたアンケート調査の報告

### ○「松原市地域医療の充実・向上」に向けたアンケート結果について主な意見

- ・病院の「待ち時間が長い」という市民の不満については、医療現場の状況を市民に理解を求めつつも、中核的な病院と開業医との振り分けが機能すれば、大病院志向が解消に向かう。松原市の規模で結構中核的な病院もあり、システムの一つとして「地域連携パス」を導入し、受診者の

流れが変われば不満も解消に向かうのでは。

- 「地域連携」については、医療機関の間では「地域連携室」を設けたり、メディカルソーシャルワーカー（MSW）を配置したりして進みつつあるが、市民の感覚としては不安がある。「どこにかかってもちゃんと紹介してもらえる」というPRが必要。相談から連携が始まるが、相談窓口があるのを知らない人が多く、もっと利用していただける方法を考える必要がある。
- がん検診の受診率が低い。これは、松原市だけの問題ではなくて、全国的かつ大阪が特に課題として背負っている。自治体が検診率向上に努力すればするほど行政の持ち出しが多くなるという財源の問題、市民が受診しやすい体制づくり（開業医の体制、機器の限界）、周知の方法など、「従来型の発想ではなく、知恵を絞る」必要がある。
- 救急医療については、明治橋病院や徳洲会病院、阪南中央病院などの病院や土曜日・日曜日に診察している診療所もあり、現実にはそれほど切迫しているわけではないのでは。
- 徳洲会病院において、小児科の入院医療が早くできるようにして欲しい。
- 予防接種について、はしかのワクチンの接種率を上げるために3期について中学校で実施と子宮頸がん予防ワクチン、肺炎球菌ワクチン、Hibワクチンの公費助成の検討を。
- 前立腺がん検診の導入について検討を。
- 学校を全面禁煙に。
- 地域包括支援センターは市内に2ヶ所では、少ないのではないか。
- 市立松原病院看護師の知識や経験を活かせるようなシステムを考えられないか。

### 「第3回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成22年 5月10日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

（事務局）藤本健康部長、岡田健康部次長、林副理事、  
田村地域保健課長、浦野参事、谷口課長補佐

#### ○田中英徳会長よりあいさつ

平成22年4月から、山田前会長の後を引き継ぎ、医師会の会長をさせていただいており、この委員会の会長を務めさせていただくことになった。よろしくをお願いしたい。

#### ○事務局より説明

- ・委員会のこれまでの経過並びに課題について

1回目・2回目の委員会及び市民アンケート実施のなかで、がん検診の受診率が低いこと、医療の連携について、市立松原病院からきた看護師等職員の有効活用といったことが、主な話題として議論されてきた。

#### ○今までの経過をふまえ、保健・医療をテーマとした議論について主な意見

- ・市立松原病院看護師について、学校や保育所、高齢者の支援に専門的な知識を活用できないか。有効活用できれば、医療相談・健康相談・訪問事業などの一層の充実・強化を図ることができるのではないか。
- ・現在の健康相談コーナーについて、市民がより利用しやすいよう、市役所2階だけでなく1階にも設置してはどうか。
- ・駅やスーパーマーケットで健康相談をしてはどうか。



## 「第4回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成22年 8月 9日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

欠席 石田易司（桃山学院大学教授）

（事務局）藤本健康部長、岡田健康部次長、林副理事、  
田村地域保健課長、浦野参事、谷口課長補佐

### ○予防接種をテーマとした議論について主な意見

- ・国が子宮頸がんの予防に取り組む方針を示したことから、具体的な事業について、国で早急に議論をし、接種できるようにして欲しい。
- ・子宮頸がんワクチンは、がんを予防するワクチンであり、3回の接種で5万円前後の費用がかかるが、がんの予防ができるのなら結果として医療費の削減につながる。
- ・ワクチンや予防施策は医療保険制度で給付するべきではないか。しかし、国民健康保険財政は厳しく、自治体が公費で負担するとなれば、財政難の自治体は難しくなる。
- ・H i b 髄膜炎は年間で乳幼児600人がかかり、5%が死亡している。また25%には後遺症が残るといわれている。接種したいという保護者が多い。
- ・任意の予防接種の補助に取り組んでいただきたいと同時に多くのワクチンについても検討を。

### ○病診連携、かかりつけ医を持つための啓発をテーマとした議論について主な意見

- ・地域連携パス（診療計画書）では、脳卒中は利用されているが、その他の疾患は利用できていない。患者さんへの説明も難しい。

- ・地域の住民と診療所のつながりが必要である。
- ・地域の公民館や老人センターへ出向いて、医師による健康講座などを行ってはどうか。

## 「第5回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成22年11月22日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

欠席 前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

（事務局）藤本健康部長、岡田健康部次長、林副理事、  
田村地域保健課長、浦野参事、谷口課長補佐

### ○事務局より経過報告

①平成22年11月から子宮頸がん予防ワクチン及び小児ヒブワクチンの接種費用の助成開始。

②現在の市内医療機関の診療状況について

・平成21年度病床稼働率

阪南中央病院 78.1%

明治橋病院 78.3%

寺下病院 94.6%

徳洲会病院 市立松原病院の病床移管前 98%

病床移管後 76%

市立病院閉院により救急搬送件数が増加しているものの病床数の増加により、受け入れに余裕ができた。

・平成21年度産婦人科の状況

市内に4医療機関、合計85床、病床利用率45%

市立病院閉院後、平均的に4医療機関に分散され、分娩については充足している。

・小児科の入院について

阪南中央病院の病床稼働率は78.9%

松原市小児休日急病診療事業（於：徳洲会病院）や南河内北部小児

休日急病診療事業の後送病院。

・ 阪南中央病院について

平成22年 7月 社会医療法人の認定を受ける

(周産期医療と小児救急医療を担う)

平成22年10月 地域周産期母子医療センターの認可を受ける

(総合周産期母子医療センターを補助する)

○相談事業、予防事業の今後の方策をテーマとした議論について主な意見

- ・ 病気になったときや医療機関を受診するとき、また困ったときなど、知りたいことに的確に答えられる相談事業のニーズが高いと思う。元病院のスタッフが活用できるなら、それを強化するのもいいと思う。
- ・ 最近、ゲートキーパーという言葉をよく聞く。門番という意味で自殺の危険性があるか確かめて、的確な相談者につなぐ役割をする人のことで、そのための研修も行われている。健康相談にきている人も実は健康相談以外の問題があることが多く、適切なところに紹介するということが大切だと思う。
- ・ お金のかからない予防の方法はたくさんある。生活習慣病で一番効果的なのが「禁煙」で、心筋梗塞や肺がんなどいろんな病気が予防できる。栄養の問題でも、食生活をバランスのよいものにすることや塩分の摂取を減らすことで、肥満の予防や高血圧に効果が出てくる。
- ・ 歯科の予防では口腔ケアが大切。特に全身疾患と口腔ケアとは関係があり、糖尿病・高血圧・心疾患も歯周病が関係しているといわれている。松原市歯科医師会では創立50周年の記念事業として口腔ケアシンポジウムも予定している。
- ・ いろいろな団体やPTAなどの会議や学校の参観日の後で、それぞれテーマを絞った講座はどうか。医療の専門職でチームを作ってはどうか。

## 「第6回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成23年 4月11日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

（事務局） 藤本健康部長、岡田健康部次長、林副理事、  
田村地域保健課長、向井参事、谷口課長補佐、  
青山主幹

○東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りして黙祷

○かかりつけ医どうしの地域連携をテーマとした議論について主な意見

- ・在宅で、患者を診ようとする、いろんな医療機関とケアマネジャー、介護や訪問看護の人たちと連携をとらないと難しいが、今はいろんな集まりがあり、連携が広がってきて、いい方向になっている。
- ・保健所では、在宅で往診が難しい難病の患者に対して、在宅往診のできる体制を整えるために、推進委員会を作っている。
- ・在宅医療に積極的な医師が中心になって、介護・福祉と連携を広げていきたい。

○東日本大震災での取り組みについて報告

- ・大阪府医師会では、震災直後に医師の派遣を行い、その後、医師・看護師・事務での医療チームを派遣している。また、被災地の医療活動では医薬品が不足していたため、薬剤師の役割が重要だったとの報告があった。
- ・日本歯科医師会は歯科医師や歯科衛生士を藤井寺保健所は早い時期から保健師やレントゲン技師をそれぞれ派遣し支援を行っている。

## 「第7回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成23年10月31日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

欠席 前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

（事務局）藤本健康部長、岡田健康部次長、林副理事、  
田村地域保健課長、向井参事、谷口課長補佐、  
青山主幹

### ○事務局よりがん検診及びワクチン接種について報告

#### ①がん検診

- ・健康増進法に定められている胃・大腸・肺・子宮・乳がんの5つのがん検診については、いずれも年々受診率が上がっている。
- ・啓発については、「検診を受けましょう」という大きな横断幕を庁舎入り口に掲げたり、ステッカーを市内巡回バス（ぐるりん号）に貼ったり、特定年齢を対象にはがきを送付するなど工夫をしているところである。その他、がんドック（一日ですべてのがん検診が受診できる）の回数を増やす、乳幼児健診時に保護者の方に検診をPR、10月号の広報誌にがん検診の特集記事を掲載、特定健診受診者への受診券送付時に検診の案内を同封などに取り組んだ。

#### ②ワクチン接種

- ・取り組みの経過について報告。

### ○がん検診及びワクチン接種をテーマとした議論について主な意見

- ・名前の書かれたクーポン券が送られてくると効果があるのではないか。
- ・前立腺がん検診について検討してはどうか。

○事務局よりメンタルヘルスの取り組みについて報告 資料

- ・市の健康増進計画『健康まつばら21』の中で「休養・こころの健康」という分野で、健康相談や上手な睡眠のとり方、ストレス解消法などの啓発を実施。
- ・平成22年度には、自殺予防対策関係の担当課における庁内連絡会を立ち上げて、他課と連携している。相談パンフレットの作成、あるいは9月の自殺予防週間における相談カードや啓発グッズの配布、3月の自殺対策強化月間における河内松原・河内天美周辺における街頭キャンペーンを実施。平成23年度には、音無美紀子さんを迎えて「うつ病が教えてくれたこと」をテーマに講演会を実施。他には、マインドバランスによるストレスチェックの実施やゲートキーパー養成研修の実施を予定。

○メンタルヘルスの取り組みをテーマとした議論について主な意見

- ・大阪府の取り組みとして、自殺未遂者のフォローを救命救急センターと連携してすることを考えている。
- ・いろんな担当者がゲートキーパーになることは、非常に意味があると思うのでぜひ広げてやって欲しい。
- ・社会福祉協議会では、地域でサロンやミニデイサービスを開いて、閉じこもりを予防したり気軽に相談できる取り組みを行っている。
- ・平成10年ごろから自殺者が増えている原因として、経済的な困窮が非常に大きいと思う。

## 「第8回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成25年 3月28日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会 会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

御前哲雄（大阪府藤井寺保健所 所長）

欠席 石田易司（桃山学院大学教授）

（事務局） 藤本健康部長、岡田健康部次長、向井課長、青山参事、  
谷口課長補佐、吉田主幹

### ○事務局より報告

- ・これまでの委員会の開催内容とこの間の地域医療や保健予防事業の取り組みについて報告

### ○これまでの地域医療や保健予防事業の取り組みをテーマとした議論について 主な意見

- ・第7回目の委員会で、メンタルヘルスについて議論したので、追加を。
- ・がん検診の未受診者への勧奨や健康ステーションなど、積極的なよい取り組みをされている。
- ・医療体制や地域医療については充足してきており、予防接種、健診についても積極的に取り組んできた。健康教育・相談についても拡充しており、市立松原病院閉院後の医療水準は回復できたと委員会で承認。



## 「第9回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成25年 8月 5日（月） 午後2時～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会相談役 前会長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

柴田 敏之（大阪府藤井寺保健所 所長）

欠席 前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

石田易司（桃山学院大学教授）

（事務局）岡田健康部長、大本健康部次長、向井副理事、青山参事、  
吉田課長補佐、浅田主幹

○事務局より報告

・報告書の素案について

○報告書素案の内容について検討

○本日の意見と、欠席委員の意見も伺い、修正して報告書を完成させる予定

## 「第10回松原市これからの地域医療のあり方検討委員会」 議事録 要約

開催日時：平成25年 9月 3日（火） 午後2時30分～

場 所：市役所 3階 302会議室

出席者：（委員会委員） 順不同、敬称略

田中英徳（松原市医師会 会長）

西本桂三（松原市歯科医師会相談役 前会長）

前川基継（松原市医師会理事 明治橋病院長）

高鳥毛敏雄（関西大学教授）

石田易司（桃山学院大学教授）

竹井文子（松原市社会福祉協議会在宅福祉課 課長）

柴田 敏之（大阪府藤井寺保健所 所長）

澤井市長

（事務局）岡田健康部長、大本健康部次長、向井副理事、青山参事、  
吉田課長補佐、浅田主幹

○田中委員長より、本検討委員会のまとめの報告

○田中委員長から澤井市長へ報告書を提出

○澤井市長あいさつ